

メッセージアウトライン

ヨハネ9：35～41「主よ。私は信じます」

イエスは安息日に生まれつきの盲人であった人をいやされた。宗教家である律法学者やパリサイ人たちはイエスのしたことを追求し、あげくの果てにこの盲人であった男を外に追い出してしまった。これはユダヤ教会から追放、破門するというこゝを意味する大変厳しい処置であった。イエスは彼が追放されたことを聞いて、わざわざ彼を見つけに来られた。これは何日かたってからのことと思われる。そしてイエスが彼に言われたことは、「あなたは人の子を信じますか」であった。(35) この「人の子」とは単なる人間の子という意味ではなく旧約のダニエル書と関係がある。→ダニエル7:13~14 それによれば「人の子」とは神のもとから来て、神から諸民、諸国を支配し治める権威を与えられたお方ということであり、イエスはこのことばを使うことによって、ご自分こそがダニエル書で預言されている、神のもとから来た、権威ある者であるということを示しておられるのである。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることが出来ますように」(36) 彼は目の前にいるのがおの方であるということを知らなかった。「あなたと話しているのがそれです」(37) イエスは私こそその人ですと示されたのである。「彼は言った。『主よ。私は信じます』そして彼はイエスを拝した」(38) 「拝した」とは礼拝したということであり、ユダヤ人はこの行為は神にだけしかしない。→出エジプト20:3~6 しかし彼はイエスを拝んだ。つまりイエスを神として信じ、礼拝したのである。そしてイエスはその礼拝を受け入れられたのである。このことからイエスがまことの神、まことの救い主であるということがわかる。この盲人であった人は目をあけていただいたことから始まり、ついにイエスを神と信じる信仰に導かれたのである。

「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです」(39)→ヨハネ3:17~18, 36参照

「目の見えない者が見えるようになり」とは自分はどうして救われたらよいのかわからない霊的盲目だと自覚し苦しみ悩む人々をイエスはその霊の目、心の目をあけ、救いに導かれるということ。「見える者が盲目となるため」とは自分は霊的に見える。神のことも救いのこともわかっている、知っていると思っている人々には、実は自分たちが霊的に盲目であることを気づかせる。そのために私は来たのだとイエスは言われるのである。これを聞いてイエスとともにいたパリサイ人たちは「私たちが盲目なのですか」と尋ねた。(40) イエスは言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える』と言っています。あなたがたの罪は残るのです」(41) せっかく生まれつきの盲人がいやされたというあざやかな神のみわざを見ても、なお信ぜず、イエスを救い主と認めず冒涇する。こういう罪はいつまでも残る。赦されることはないというのである。

私たちが単に宗教的知識を知り、また実践していてもイエスを救い主と信じることができないならば霊的盲人である。私たちは「主よ。私は信じます」と心から信仰告白をし、イエスを自分の救い主と信じ、従う者になりたい。